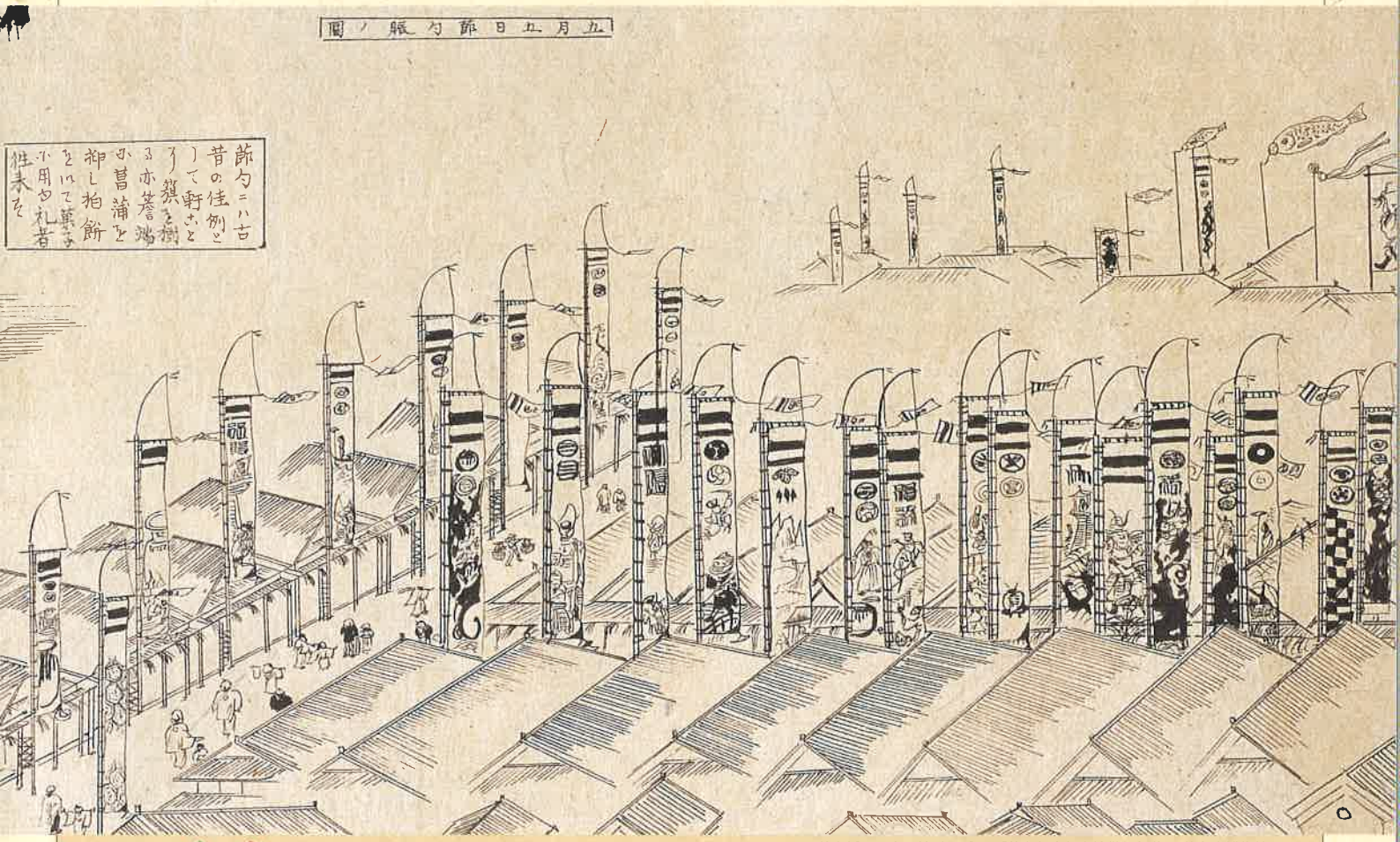
sendai-city chronicles communication paper.

せんだい 市史通信

第7号
仙台市博物館
市史編さん室



仙台城下に立ち並ぶのぼり　「仙台年中行事絵巻」(部分)　仙台市博物館蔵

せんだい今昔

仙台城下の端午の節句

最近は、5月の節句のころになっても鯉のぼりを上げる家はめっきり少なくなり、端午の節句の習わしは、かしわ餅があちこちの店先にならぶことによってかろうじて確認できるくらいではないでしょうか。

鯉のぼりに代表される男児の成長を願って5月5日に行われる節句の行事は、仙台でも古くから行われていました。大番士185石の中級武士であった浜田家では、4月28日にのぼりを立て、節句前日の5月4日には菖蒲を準備し家の軒端に葺いています。5月5日の節句当日にはかしわ餅とにごり酒、肴3種を準備しお祝いをしていました。また、この日は仙台城の中でも節句のお祝いがあり、家臣たちは麻上下・無紋の白帷子で登城をするのが恒例となっていたようです。

ところで、仙台藩士の屋敷では、家紋や鍾馗、武者などを染め抜いたのぼりを家々で競い合うように立てていました。その大きさは、幅2尺5寸（約75cm）から3尺（約90cm）、縦は2丈4尺（約720cm）から3丈（約900cm）にも及んでいました。ほかにも、鯉のぼりや吹き流しなども立てられ、その様子は実に勇ましいものだったと伝えられています。また、町人の家でも店先にのぼりを立てており、町中がたくさんののぼりで埋め尽くされていた様子が想像されます。

そして、こうしたのぼりを見物するのが当時の城下町の年中行事の一つで、「幟見（のぼりみ）」と呼ばれていました。町中を歩いて見て回る人もいれば、城下の南に位置する向山に登って一望することも盛んに行われていたようです。

藩の財政や家臣たちの経済事情が厳しくなる幕末の安政4年（1857）、藩ではこうしたのぼりをぜいたくだとして武家屋敷で立てることを禁止しました。もっとも、この禁止令の後でも家臣たちは馬印や指小旗（さしこばた）を代わりに立て、「伊達」の心意気を示しつづけていました。

行楽シーズン到来 歩いてみませんか

天気のよい休日、たまには公園などを
のんびり散策してみるのはいかがでしょうか。
ふだん何げなく通り過ぎている場所が、
思いがけず歴史上の人物や出来事に
結びついていることがあります。
今回は、そんな歴史が隠れている
公園や遊歩道をご紹介します。

高森山公園
宮城野区岩切、利府町神谷沢

お花見に、またハイキングにと訪れる高森山公園。頂上をはじめあちこちに平らなところがあり、景色を見ながら散歩するにはちょうどいい場所です。これらの平場は、自然の地形ではなく、岩切城という城が築かれていたときに作られたものなのです。

室町時代の初め、足利尊氏・直義が兄弟で争った際に、東北でも尊氏派の畠山高国・国氏父子と直義派の吉良貞家の間で戦いがありました。観応2年(1351)2月12日、岩切城の畠山勢に対し吉良勢が総攻撃をしかけ、畠山父子以下100余人が切腹、多数が討死しました。

このような激しい戦いがあったことなど今の景色からは想像がつきません。しかし、よく見ると、外部からの侵入を防ぐためにいろいろな工夫がなされています。山は周囲が深い谷、いわば天然の城壁に囲まれています。さらに頂上の本丸へ登ろうとする敵を阻むために尾根を断ち切った所(堀切)や、多数の軍勢でも数名の列で通らざるをえない細い橋状の道(土橋)などがあります。道よりも高い土盛りがあれば、そこに身を潜めて待ち伏せもできます。

昔の武将はどのように攻めていったのか、守る側はどこで迎え撃ったのか。そんな思いをはせつつ、ゆっくり散策してみるのも楽しいかもしれません。

詳しくは『特別編2　考古資料』『通史編2　古代中世』

土橋の跡

堀切の跡

広瀬川（鎧淵～広瀬橋）
太白区根岸町、長町1丁目、若林区河原町1丁目、河原町2丁目

宮城県武道館(太白区根岸町)の近くに鎧淵(よろいぶち)と呼ばれる場所があります。当時の幹線道路である奥大道(おくだいどう)がこのあたりを通っており、文治5年(1189)、平泉に向けて進軍する源頼朝の軍勢が、ここで広瀬川を渡ったとされています。

また、正平6年(観応2・1351)11月22日には、北畠顕信ら南朝勢が、岩切城合戦に勝利した北朝側の吉良貞家を破った広瀬川の合戦が行われましたが、それもこの辺りと考えられます。

鎧淵から下流に向かうと広瀬橋があります。現在はもう架け替えられましたが、明治42年(1909)に架けられた旧広瀬橋は日本初の鉄筋コンクリート橋でした。当時の『河北新報』には「本邦における嚆矢なり」と記されています。

詳しくは『通史編2　古代中世』『資料編5　近代現代1　交通建設』『特別編4　市民生活』

現在の広瀬川(長町1丁目より望む)

三神峯公園
太白区三神峯1丁目

三神峯古墳1号墳（写真提供　藤沢 敦氏）

太白区の桜の名所・三神峯公園。かつて仙台陸軍幼年学校や旧制二高、東北大学、宮城教育大学の校舎が置かれたこの場所から、縄文時代の竪穴住居跡が発見されたことがありました。遺跡の存在は戦前から知られており、土器や石器も見つかっていましたが、本格的な発掘が行われたのは戦後になってからでした。

昭和42年(1967)以降、3度にわたる発掘調査の結果、縄文時代前期(5000年～6000年前)の竪穴住居の跡が8棟、そのほかに石器や縄文土器などが出土しました。この土地が居住地として選ばれたのは、日当たりがよく、安全が確保しやすい台地の上だったからと考えられています。

また、公園の西端には古墳が二つ並んでいます。古墳は現在も残っていて、一見すると小さな山のようですが、いずれも円墳で5世紀後半ころに造られたと考えられています。

詳しくは『通史編1　原始』『特別編2　考古資料』

施設探訪　東北大学史料館

仙台市史で使いたい写真や資料が博物館にないとき、必要なものはよそからお借りします。また、資料が見つかれば調査にでかけたりもします。このコーナーでは、市史編さん事業の過程で訪れた施設をご紹介します。

東北大学の片平キャンパス正門を入って間もなく、右手にネオルネサンス様式の重厚で美しい建物があります。これが東北大学史料館です。大正14年に東北帝国大学附属図書館として建てられたもので、大正ロマンの時代の雰囲気を色濃く残しています。

常設展には東北帝国大学開学式の告辞及び祝辞、御真影奉安庫などの貴重な資料が展示されています。

現在、常設展のほかに、5月2日まで企画展「東北帝国大学と女子学生」が開催されています。東北大学はわが国で初めて正式な大学生として女子の入学を認めました。ここでは時代の先駆者であった女性たちの人生を垣間見ることができます。

史料館は玄関を入って廊下を右に進み、レトロな造りの階段を上ると二階が展示室になっています。入場無料で自由に見学できますので、気軽に立ち寄って見ていただきたいところです。

東北大学史料館
仙台市青葉区片平2－1－1　東北大学片平キャンパス内
●TEL／022-217-5040
●開館日／月曜日～金曜日
●開館時間／10：00～16：00

仙台市史 でまえ講座

「仙台市史でまえ講座」は、年2回程度、仙台市内の市民センターと共催で、仙台市史編さん事業で得られた調査研究の成果のなかから、開催場所に深く関連するテーマを選んで講演を行っています。その第2回目として、平成13年11月24日(土)、12月1日(土)の2日にわたり、「泉区の中世」と題して泉区中央市民センターを会場に開催されました。

仙台市史の執筆陣4名の講演に対して、両日とも参加者は80名を超え、講演後の質疑応答の際も熱心に質問される方が多く、盛況のうちに終了しました。

また、平成14年2月23日(土)には六郷市民センターを会場に第3回の講座が開催され、こちらも80名近い方々に参加していただきました。今後は広瀬市民センター、高砂市民センターなどで開催を予定していますので、是非ご参加ください。日程などの詳細は『仙台市政だより』でお知らせします。

モノがたり 仙台

『二枚のビラ』

15年にわたる日本の第二次世界大戦の終結にかかわる二枚のビラが残されています。

その一枚は、戦争末期（昭和20年8月13日といわれる）に米軍爆撃機B29が仙台上空から投下したもので、日本政府がポツダム宣言受諾を国体の護持（天皇大権には手をつけないこと）という条件つきで連合国に通告したことをすっぱ抜き、日本国民に戦争の終結を求めた宣伝ビラです。文中に「戦争を直ちにやめるか否かは、日本政府の決断にあります。皆様は次の公式通告をお読みになれば、どうすれば戦争をやめる事が出来るかがお判りになります」という呼びかけもあります。全国各地に投下されたこのビラで、通告の内容を国民に知られた政府は、周章狼狽し、ポツダム宣言の無条件受諾へと事態は急転直下向かっていったといわれます。「謀略ビラは直ぐに届出でよ。届出をしない時は処罰を受けることになる」（『仙台市公報』昭和20年6月1日）という状況の下、市民はなぜビラを手元に残したのでしょうか。

もう一枚は、昭和20年8月15日（終戦の日）に、日本海軍機が、仙台上空から市民に向け投下した「真ノ日本国民ニ告ク」という謄写版刷りのビラです。「降伏ハ日本ノ滅亡ニシテ再建ハ不可能ナリ、降伏ハ天皇陛下ノ御意図ニ非ルナリ」「軍ハ戦意ヲ喪失セルモノニ非ス」「我等ノ向フベキ道ハ米英ニ対スル宣戦ノ詔書ニ炳乎（ヘイコ）タリ、断固トシテ邪道米英及売国ノ日本人ヲ撃砕シ、真ノ日本ヲ建設セヨ」などと書かれており、海軍の厚木航空隊で起きた反乱に参加した隊員が撒いたものといわれています。

B29が投下したビラ（仙台市戦災復興記念館蔵）

周到に、しかも全く秘密のうちに準備されていたため、国民の大部分にとって、あまりにも唐突で、予期しなかった戦争の終結でしたが、この二枚の小さなビラは、その真相の一部を私たちに教えてくれます。なお、この二枚のビラは、仙台市戦災復興記念館に保存・展示されています。

既刊紹介

特別編1　自然

東は太平洋、西は奥羽山脈に接する仙台市は、約788平方キロメートルという広大な面積をもち、その地形と気候は変化に富んでいます。そのためすぐれた景観が多く、いろいろな動植物が存在しています。

『特別編1　自然』では、自然を研究対象とした博物学の歴史をはじめ、仙台周辺の地形や気候、動植物を、カラー図版と表でわかりやすく紹介しています。また、人間の歴史とともに変化していった自然環境について、時代ごとに詳しく解説しています。

さらに、私たちの暮らしと自然との関係を示す例として、恵みをもたらす資源と、私たちをおびやかす災害を取り上げています。

仙台の歴史を完全収録　各分野ごと続々登場

【通史編3】近世1（新刊）
【資料編6】近代現代2 産業経済（新刊）

既刊 好評発売中

◆発売元：宮城県教科書供給所
〒981-0021　仙台市青葉区中央二丁目9-22
TEL:022-222-5052
FAX:022-222-5056
県内主要書店で発売します。本の発送をご希望の方は、上記あてにお申し込みください。

◆詳しくは、仙台市博物館市史編さん室までお問い合せください。
仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862　仙台市青葉区川内三の丸跡
TEL:022-225-3074
FAX:022-216-1830

【通史編1】原始
【通史編2】古代中世
【資料編1】古代中世
【資料編2】近世1　藩政
【資料編3】近世2　城下町
【資料編4】近世3　村落
【資料編5】近代現代1　交通建設
【資料編10】伊達政宗文書1
【特別編1】自然
【特別編2】考古資料
【特別編3】美術工芸
【特別編4】市民生活
【特別編5】板碑
【特別編6】民俗

【通史編】3,000円（税込み価格）
【資料編】4,000円（税込み価格）
【特別編】6,000円（税込み価格）
板碑のみ 5,000円（税込み価格）
1冊ずつお求めできます

続刊予定

- 通史編／近世2～3・近代1～2・現代1～2
- 資料編／近代現代3～4・伊達政宗文書2～4　文化芸能
- 特別編／城館・慶長遣欧使節・地域史

おしらせ

今後の参考にしたいと思いますので、『仙台市史』について、ご意見・ご感想を募集しています。はがきにご意見・ご感想と住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、下記までお送りください。ご意見をお寄せくださった方の中から3名様に、『仙台市史』スキップカードを差し上げます。

〒980-0862　仙台市青葉区川内三の丸跡
仙台市博物館市史編さん室「市史通信」係
締め切りは5月6日（当日消印有効）、発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

せんだい市史通信 第7号
発行年月日／平成14年3月31日
編集・発行／仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862　仙台市青葉区川内三の丸跡
TEL／022-225-3074　FAX／022-216-1830
URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum